

第1回 木酢施設設置

2015年5月12日より、フィリピン安全農畜産業技術普及支援プロジェクトの現地調整員として着任致しました、笹子和希と申します。

着任し間もないですが、本日は5月14日にケソン州サリアヤ町ビグナイウノ村で行った木酢施設設置についてご報告させていただきます。拙い文章ですが、どうぞお付き合い下さい。

真夏の日差しが厳しかったこの日、木陰が出来始めたお昼過ぎごろから木酢施設の建設を始めました。サリアヤ町役場の農政課の方々も建設の様子を見に来て下さいました。



〈ドラム缶式木酢施設を建設しました。〉 〈木陰で作業をすすめる参加者。〉

午前中に建設の手順を参加者にはあらかじめ伝えていましたので作業は順調！ のようにみえたのですが、途中で2度スコールに遭い、建設作業を終えた頃には午後5時を回っていました。予定が遅れ、この日窯に火を入れることは出来ませんでした。



〈ドラム缶の周りに小石を入れる。〉
〈写真右：抽出した木酢液を容器へ流し入れるための穴を窯の壁に彫る作業。〉



〈完成した木酢施設。〉

この日に木酢液を抽出することは叶いませんでしたが、炭・木酢液の効果と当プロジェクトに関心を寄せてくれているサリアヤ町役場の農政課から、トウモロコシの軸やココナッツの殻を利用して木酢液を抽出したいという要望を受け、来月、実際に木酢液の抽出を行いその後の使用方法を伝えるセミナーを開催することとなりました。

サリアヤ町は43の村を抱える大きな町であるので、次回6月にセミナーを実施する際は各村の村長も招き、より広く炭・木酢液に関心を持ってもらえたらと考えております。近い将来、ビグナイウノ村では炭・木酢液を使った農法をローカルな農家に伝えていくためのデモファームも作る予定とのことで、出来る限りのサポートをしていけたらと思います。

残った課題は新たな機会と可能性を含んでいることが分かった今回の建設作業。6月のセミナーを通し、この土地で木酢液がしっかり人々に根付くようプロジェクトスタッフ一同、力をあげて取り組みます。